

特定調達品目のOCR用紙に関する検討

製紙業界の意見

- ・ トータルで古紙を沢山使用することが重要であり、特定の製品に古紙配合率を設定するのは疑問である
- ・ 特に、OCR用紙については、高い品質を要求されるため、古紙を配合することに無理があり、設定すべきでない
- ・ 古紙は現在、不足している状況であり、OCR用紙で古紙を利用することにより、他の部分でバージンが使われている状況を見ると、古紙を使いやすい分野で使用すべきであるとする

エコマーク取得製品（取得業者に調査）

- ・ エコマークを取得しているのは1社のみ
- ・ 通常は生産を行っておらず、受注生産
- ・ プレコンシューマーの古紙を厳選して使用しており、OCR用紙の基準は無い方がよいとの意見

他の製造業者への調査

- ・ 古紙を多く使うと汚れが入る可能性が高くなり、特に品質を要求されるOCR用紙においては、製造時における良質の古紙の選別等の負担が増えるとともに、製造した用紙の廃棄率も高くなる
- ・ 古紙配合率を50%にするためには、古紙配合の全てを市中回収古紙により生産するのは不可能であり、プレコンシューマーを高配合、又はプレコンシューマーのみを使用

OCR用紙の生産量について（平成14年度 製紙連合会調査結果）

	総生産量（トン）	割合
PPC用紙	721,608	45.5%
フォーム用紙	353,337	22.3%
インクジェット用紙	45,419	2.9%
複写原紙（ノーカーボン等）	284,816	17.9%
OCR用紙	5,716	0.4%
その他の情報用紙	175,952	11.1%
合計	1,586,848	100%